

## E-15 電気掃除機的生活学的研究

### —(その1) 序説(研究の意義と全体計画)—

大阪市大家政 ○上林 博雄  
一棟 宏子

意義・目的：家庭用機器についても生産に基準をあたえ、ひいては消費者の保護の意味をもつJIS規定があるが、これをユーザーの機器消費(選択・運用・管理・棄却)の基準とするのには甚だ不備な状態である。近代資本主義体制のなかでは公的資金を導入して消費物資のチェック機関の運営や消費者運動を推進するのが常態となってきたが、これらに学問的な諸資料をあたえ、かつ広く社会に奉仕しうる基礎研究が、ここでいう生活学的研究である。さて電気掃除機を研究の対象としたのは、2、3年来メーカーが機構を異にする種々な製品を開発してきたことによるが、総合的な生活学的研究の一つのケース・スタディとしたいためでもある。

従来の研究：昭和30年におこなった我々の研究をはじめ幾多の研究が大学や研究所でおこなわれているが、それらを簡単に解説し問題点をあきらかにする。

研究計画：次の4分野に大別し研究する。

I) 家庭掃除の実態と掃除機使用者の応答調査(一部発表、後記参照)

II) 家庭集塵の分析とその標準組成の探究。

III) 家庭用掃除機の機械的性能の明確化

IV) 家庭用掃除機の人間工学的検討

協同研究のアピール：以上の各分野において基礎研究や追試までを一研究室でやるのには限界がある。共同の討議の場をもちたい。

後記：本研究，（その1），家庭掃除の実態，は発表の都合上本学会関西支部第32回研究発表会（S. 44. 5. 3, 於奈良女大）ですでに発表した。